特別支援教育一、二、三学年国語科学習指導案

授業者

一　単元名

りょうりのほんをつくろう（書く）

二　単元について

【単元設定の理由】

本学級は一年生二名（A、B）、二年生二名（C、D）、三年生二名（E、F）の六名で編成されている。

本学級に在籍する子どもたちの実態について、国語科の「指導内容表」及び担任の日常観察から、四月に次のようにとらえた。

子ども	「書く」にかかわる実態
A（一年）	自分の名前（名のみ）の文字が分かり、なぞり書きができる。直線や波線を、おおよそなぞり書きできる。
B（一年）	直線、波線、交差した線をおおよそなぞり書きできる。自分の名前を大体の形で書くことができる。
C（二年）	平仮名で清音、濁音、拗音を書くことができる。
D（二年）	平仮名（清音）三十六文字をおおよその形で書くことができる。二文字までのものの名前を書くことができる。
E（三年）	平仮名（清音のみ）を使って、教師の支援のもと四文字までのものの名前を書くことができる。
F（三年）	二年生で学習する漢字をおおよそ書くことができる。自分が経験したことを短文で書くことができる。

これを受けて、国語科の「書く」にかかわる年間目標を次のように設定した。

子ども	「書く」にかかわる年間目標
A	ひらがな（清音）四十六文字を書くことができる。 調理で使う道具や材料の名前をひらがな（清音）でかくことができる。
B	ひらがな（清音、濁音）四十六文字を書くことができる。 調理で使う道具や材料の名前をひらがな（清音）でかくことができる。 カタカナを書くことができる。
C	調理の説明を二語文程度で書くことができる。 平仮名（清音、濁音）を書くことができる。
D	調理の説明を二語文程度で書くことができる。 平仮名（清音、濁音、半濁音）で、身近なものの名前を書くことができる。
E	調理の説明を二語文程度で書くことができる。 三年生で学習する漢字を書くことができる。
F	くわしくする言葉や調理用語を使ったり、順序を表す言葉を使ったりして調理の説明を書くことができる。

文字や文章を書くことは、事物の認識をする基礎である。また、できごとのあらましや自分の思いを伝える手段の一つである。書くことによって形としてのこり、繰り返し読んだり、活用したりすることができるよさがある。平仮名の清音を一文字ずつ学習する段階から、濁音、拗音と発展したり、カタカナの学習に進んだりしていく。また、単語の学習から、徐々に２語文や３語文へと助詞を使って文章で書く学習や、くわしくする言葉を付けたしたり順序よく書いたりする学習へと丁寧に扱っていく。

子どもたちは、五月に国語「もののなまえ」で、遠足の持ち物や行き先の名前を平仮名やカタカナ、漢字を使って書いたり、読んだりしてきた。

それを踏まえ、本単元終了時の目標を次のように設定した。

子ども	「書くこと」にかかわる本単元終了時までの目標
A	道具や材料の名前の一部のひらがな（清音）を書くことができる。
B	道具や材料の名前をひらがな（清音・濁音）で書くことができる。
C	材料や道具の名前をカタカナで書くことができる。また、調理内容を表す言葉を書くことができる。
D	道具や材料の名前をひらがな（清音・濁音）で書くことができる。
E	道具や材料の名前をひらがな（清音・濁音・拗音）で書くことができる。また、調理内容を表す言葉を書くことができる。
F	順番を表す言葉を使って、調理の説明を書くことができる。詳しくする言葉を書き加えることができる。

本単元では、調理材料の名前の一文字を練習すること、単語の学習、名称の単語と活動内容を表す単語の学習、調理の手順を順序よく文章で書く学習までを扱う。これは、文字を使って構成したり記述したりする力の向上につながると考える。また、生活単元学習で使用する具体物や活動とつなげて学習することでより理解が図られると考え、本単元を設定した。

本単元での学習を受けて、次の国語科の「たのしかった遠足」では、経験したことを想起して、遠足の活動や行き先を単語で書いたり、順序よく書いたりする学習へとつなげていく。また、十一月の生活単元学習「おみせやさんをしよう」と関連した「りょうりのほんをつくろう②」でのステップアップしたりへつなげていきたい。

【研究にかかわって】

（一）　生活単元学習と関連させた学習活動

本単元「りょうりのほんをつくろう」は、生活単元学習の校内合宿の調理で使うための料理の本を書く学習である。校内合宿は、学校へ宿泊をし、校外学習へ出かけたり、キャンプファイヤーをしたり、子どもたちがとても楽しみにしている活動である。その中で、自分たちが食事を作ることも楽しみの一つである。その際に使う「りょうりのほん」、おいしい料理にするために、必ず使う物であり、書くことの必要感をもつことができる学習であると考える。また、完成した「りょうりのほん」を使いながら料理を完成させることで、自分の書いた物が役立つことを実感を伴って感じることができると考える。

〈国語科〉
・平仮名や片仮名で材料の名前を書く。
・平仮名やカタカナで道具の名前を書く。
・調理内容（活動内容）を書く。
・くわしくする言葉や、順番を表す言葉を使って書く。

目的意識・意欲の向上

使ってみる

〈生活単元学習〉
・りょうりのほんを見て、材料を準備する。
・りょうりのほんを見て道具を準備する。
・りょうりのほんを見て調理する。

（二）　一人一人の学習内容の系統的把握

単元を構成するに当たっては、子どものたちの実態を踏まえながら学習内容に無理がなくステップアップするように配慮する。具体的には一人一人の課題に応じて以下の表のような段階化した指導をする。

子ども	前単元までの到達内容	本単元の目標 第1次	本単元の目標 第2次	次にめざす力
A	ひらがな八文字をおおよその形で書くことができる。	材料の名前の一部を平仮名（清音のみ）で書くことができる。	道具の名前の一部を平仮名（清音のみ）で書くことができる。	遠足にかかわる平仮名の一部を書くことができる。
B	ひらがな十七文字を書くことができる。	材料の名前を平仮名（清音・濁音）で書くことができる。	道具の名前を平仮名（清音・濁音）で書くことができる。	遠足の活動を単語で書くことができる。
C	カタカナ十文字をおおよその形で書くことができる。	材料や道具の名前をカタカナや平仮名で書くことができる。	行動を表す言葉を書くことができる。	遠足の活動を２語文で書くことができる。
D	ひらがな四十一文字を書くことができる。	材料の名前を（清音・濁音）で書くことができる。	道具の名前を（清音・濁音）で書くことができる。	遠足の活動を２語文で書くことができる。
E	濁音十五文字を書くことができる。	材料や道具の名前を平仮名（清音・濁音・拗音）で書くことができる。	行動を表す言葉を書くことができる。	遠足の活動を２語文で書くことができる。
F	持ち物や行き先に含まれる漢字を書くことができる。	順番を表す言葉を使って、調理の内容を３語文程度で書くことができる。	くわしくする言葉を書き加えることができる。	自分の経験を想起し、順序よく書くことができる。

三　学習指導計画　＊本時は、第六時

次	時	各時間の目標 A	B	D	C	E	F
一	一	オリエンテーション					
	二	「こ」を書くことができる。	「だいこん」を書くことができる。		「サ」を書くことができる。	材料（食材）の名前を書くことができる。	材料や道具の名前を書くことができる。
	三	「に」を書くことができる。	「にんじん」を書くことができる。	「れたす」を書くことができる。	「ラ」を書くことができる。	材料（調味料）の名前を書くことができる。	鍋を火にかける調理まで書くことができる。
	四	「か」を書くことができる。	「かにかま」を書くことができる。		「ボ」を書くことができる。	道具の名前を平仮名（清音）で書くことができる。	しいたけを切る調理を書くことができる。
	五	「ま」を書くことができる。	「たまご」を書くことができる。		「マ」を書くことができる。	道具の名前を平仮名（濁音・半濁音も含む）で書くことができる。	ねぎを切る調理を書くことができる。
	六 本時	「す」を書くことができる。	「れたす」を書くことができる。	「あぶら」を書くことができる。	「ピ」を書くことができる。	道具の名前（拗音含む）を書くことができる。	豆腐を切って完成までを書くことができる。
	七	練習・習熟を図る。					
二	八	「う」を書くことができる。	「ぼうる」を書くことができる。		ゆでたまご作りの行動を書くことができる。	鍋を火にかける行動を書くことができる。	鍋を火にかける調理までをくわしく書くことができる。
	九	「さ」を書くことができる。	「さいばし」を書くことができる。		レタスの調理の行動を書くことができる。	しいたけの調理を書くことができる。	しいたけの調理をくわしく書くことができる。
	十	「る」を書くことができる。	「ざる」を書くことができる。		かにかまの調理の行動を書くことができる。	豆腐の調理を書くことができる。	豆腐の調理を書くことができる。（主語は道具）
	十一	「な」を書くことができる。	「なべ」を書くことができる。		大根や人参の調理の行動を書くことができる。	ねぎの調理を書くことができる。	ねぎの調理をくわしく書くことができる。
	十二	「ら」を書くことができる。	「ぴいらあ」を書くことができる。		ドレッシング作りの行動を書くことができる	完成までを書くことができる。	豆腐を切る調理から完成までをくわしく書くことができる。
	十三	完成したレシピを見せ合う。					

四　本時の学習

（一）　ねらい

（二）　展開

「三　指導計画」の第六時を参照。

学習活動	形態	◎主な学習活動　○個の学習活動　★支援					
		A	B	D	C	E	F
一　前時の学習内容の確認（五分）	集団	◎前時の学習内容を確認する。 ★想起できるように、前時の学習プリントや料理の本を提示したり、机上に置き見たりすることができるようにする。 ★想起したことを確認するために学習した文字を話す場面を作る。					
二　新しい学習内容での学習 （一）学習内容の把握（六分）		★口を開けて発音するように、教師と共に行う。	★文字と音を対応できるように、指で押さえながら読むように促す。	★口を開けてはっきり発音するように、教師と共に行う。	★口を開けて発音するように、うながす。	★文字と音を対応できるように、指で押さえながら読むように促す。	★友達が聞きやすいスピードで読むように促す。
		★おいしい料理にするための学習であることを確認し、本時の意欲付けを図る。 ◎本時で学習内容を伝え、見通しをもつ。					
		○「す」を書く学習であることを知る。 ★友達に「れたす」の名前を聞くことで、名前を知ることができるようにする。 ★平仮名カードを使い「れたす」の一部の文字であることが分るようにする。	○「れたす」を書く学習であることを知る。	○「あぶら」を書く学習であることを知る。 ★「ふ」の点をとると「ふ」になることを確認することで、意欲をもてるようにする。	○「ピ」を書く学習であることを知る。 ★平仮名を対応させて、提示することで「ピーラー」の一文字であることや、音を確認できるようにする。	○道具（ほうちょう）を書く学習であることを知る。 ★「ち」と小さい「よ」で「ちょ」であること、「よ」の場所が分るようにマスに色をつける。	○とうふを切る調理から完成までを書くことを知る。 ★残りの枚数を確認することで、見通しが持てるようにする。
（二）学習内容の理解（十五分）	個別	◎それぞれの学習課題に取り組む。 ○「す」の音と形を対応させる学習。 ★「す」の音を識別するために、テープを聞いて判断できるようにする。 （機器操作は、支援員）	○「れ」の書き順を知り、書く練習をする。 ★書きやすいように補助線や始点に色をつけたりする。	○「ふ」の文字をみながら発音をする。 ★回数を○印で指定することで、見通しを持って取り組むことができるようにする。	○「ピ」の文字をみながら発音をする。 ★回数を○印で指定することで、見通しを持って取り組むことができるようにする。	○「ちょ」の文字を見ながら発音をする。 ★教師に聞こえるくらいの大きな声で読むことを事前に確認する。	○手順を追って、とうふを切る調理を練習用に書く。 ★とうふを切る手順は、順序を捉えることができるように、一枚に複数の写真を入れる。

		○「す」をなぞり書きしたり、書いたりする。 ★書きやすいように補助線や始点や終点に色をつけたりする。 ○「す」のつくことばに「す」を書く。 ★学習した文字のみを書くことで定着を図る。	○「す」の書き順を知り、書く練習をする。 ★書きやすいように補助線や始点に色をつけたりする。 ○「れ」や「す」のつくことばを書く。 ★身近なものを書くことで、言葉の理解を深めることができるようにする。
(三) 発表（七分） 三　学習のまとめ (一)まとめのゲーム　(九分) (二) 振り返り　(三分)	集団	○りょうりの本に学習した文字を書く。 ★マーカーで印をつけることで、書く場所が分るようにする。 ◎それぞれの学習を発表する。 ★友達の学習が既習内容である子どもは、正誤評価を行うように促す。子ども同士がむずかしい場合には、教師が評価する。 ◎それぞれの学習内容にかかわった活動に取り組む。 ★学習にかかわった活動を行うことを意図的に組むことで、学習内容の定着や活用を図る。 ★得点制のゲーム、子ども対教師にすることで、子ども同士が応援し合えるようにする。 ◎それぞれの学習を振り返って、がんばったことを発表する。 ★教師と共に話すことで、学習したことをふりかえることができるようにする。	★「れたす」の３文字を書くことができるように、区切りを入れる。 ★始めに平仮名カードを使って、構成し、見て書けるようにする。 ★伸ばす音に気をつけることができるように、読むときには指で文字を指しながら行う。 ★始めに平仮名カードを使って、構成し、見て書けるようにする。 ★自分の書いたものを見ることで、自分の学習を振り返ることができるようにする。 ★友達の発表を聞きながら、拍手をして称賛することができるように促す。

		○「ぷ」を複数回、なぞり書きする。 ★回数を○印で指定することで、見通しを持って取り組むことができるようにする。 ○「ぷ」のつくことばを書く。	○「ピ」を複数回、なぞり書きする。 ○「ピ」のつくことばを書く。
		○「ちょ」を複数回、なぞり書きする。 ○「ちょ」のつく言葉を書く。 ★確認する際に必ず読むことで、音と文字を対応することができるようにする。	○清書をする。 ○完成まで（みそ、とうふ、ねぎ）を入れる調理を練習用に書く。 ★最後まで書いてから、ねじれがないか確認をする。 ○清書をする。

（三）評価規準

子ども		具体の評価規準と（一）の際の対処
A	（＋）	二画目に気を付けて「す」を書くことができる。
	（－）	補助線を入れたり、書き方を音声化して教師が声をかけたりしながら書く学習に取り組む。
B	（＋）	れたすの写真を見て、「れたす」の三文字を書くことができる。
	（－）	補助線を入れたり、ポイントとなる場所に点を入れたりして書く学習に取り組む。
C	（＋）	一画目の折れに気をつけて「マ」を書くことができる。
	（－）	補助線を入れたり、ポイントとなる場所に点を入れたりして書く学習に取り組む。
D	（＋）	「ぶ」の形に気をつけながら、「あぶら」を書くことができる。
	（－）	点を付ける場所の確認をしたり、「ふ」の形に補助線を入れたりした「ぶ」を書く学習に取り組む。
E	（＋）	拗音「ちょ」を使って、「ほうちょう」を書くことができる。
	（－）	小さい「よ」を書く場所の確認をして、学習に取り組む。
F	（＋）	順序を表す言葉を使って、最後まで書くことができる。
	（－）	順序を表す言葉と調理の順序を確認する学習に取り組む。